

まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 東海学院大学・東海学院大学短期大学部
2. 日 時 令和4年2月16日（水） 15時～16時30分
3. 場 所 市長：特別会議室 参加者：大学や自宅等
（Zoomを利用して実施）
4. 出席者 <参加団体>12名 <市>市長
5. テーマ ①より暮らしやすい各務原市へ
②SDGsの取組について
③各務原市・各務原市民をより元気にするために

テーマ① より暮らしやすい各務原市へ

【参加者】ヤングケアラーとは「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子ども」をいいます（厚生労働省）。ケアを担うことで、子どもたちの生活、学習、課外活動、進路等に影響を及ぼしています。まずは実態把握とヤングケアラー概念の認知度を上げること、そして多機関連携によって具体的な支援策の構築が必要だと思います。

【市長】子どもの権利を守る観点からヤングケアラーが社会的に注目されており、国も令和2年度に全国調査を行うなど、ヤングケアラーへの支援の必要性やそれに対する課題などが取り上げられています。本市としてもヤングケアラーという概念の認知度や実態を調査するため、令和3年4月に市内の小中学校や公立の保育所、医療機関など一部の関係機関に対してアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえて教育や福祉などの関係者による「ヤングケアラー対策検討部会」を開いて各務原市としての今後のヤングケアラーに関する連絡・支援方針について協議を行っています。また、各機関が児童生徒やその家族がヤングケアラーに対する認知度が低いと認識している事や、国の調査において児童生徒がヤングケアラーを十分に認識していない結果が出ていることから、ヤングケアラーの社会的認知度の向上や、早期に発見し支援につなげる体制強化に合わせて、当市においても啓発活動を行い、ヤングケアラーの認知度を上げていく事が必要と考えます。ヤングケアラーの問題は、親の育児放棄（ネグレクト）に該当する場合もあることから、本市の児童生徒の健全な育成のためにも各機関の情報共有など関係機関の連携体制を強化し、相談窓口や必要な支援につなげていけるよう取り組んでいきます。

【参加者】学生は、保育所での実習について情報を得るときに、ホームページを検索します。私が見つけれなかっただけかもしれませんが、もう少し各務原の保育のよさを伝えられるようなホームページがあるとよいかなと思いました。

【市長】各務原市でも保育士不足が喫緊の課題となっており、大学生や高校生の方にご参加いただいて現役保育士との意見交流などを行うワールドカフェや、市の職員採用ページには、先輩保育士へのインタビュー記事を掲載するなどの取り組みを行っているところです。いただいたご意見をふまえ、お子さまの保育所を検討されている方や、保育士を目指されている方に参考としていただけるよう、保育所等が所在する地域の環境や、保育方針等がわかるページを公開させていただきます。

【参加者】思春期発達障害者とその保護者を支える相談システムの整備の充実をお願いしたいと考えています。

【市長】市では、発達障害を含む障害者及び、その保護者への支援に対応するため、地域の相談支援の拠点として、総合的な相談業務を担う「基幹相談支援センター」を開設しました。思春期を迎えた小中学生や保護者に対しては、教育センターが対応する支援体制を整えています。また、発達障害のある児童に対して、成育歴、医療歴などの情報を綴り、その支援に役立てるため、「プロフィールブック」を配布し、児童から大人になるまで切れ目のない継続的な支援を行っています。

【参加者】災害時の避難場所はどういった基準で決めているのか、実際に保育施設で被害に遭った場合の市役所などの対応は何かあるのかを知りたいです。また、災害時の保育施設と地域の連携には、例えばどのようなものが求められてくるのかもお聞きしたいです。

【市長】避難場所を決める基準は、それぞれの災害ごとに、危険なエリアに入っていない公共施設や、危険なエリア内でも強固な構造などの基準を満たしている公共施設を指定しています。災害時の本市における保育施設への対応ですが、最初にお願したいことは、被害にあう前に避難を完了させることです。そのためには、浸水想定区域や、土砂災害警戒区域の中に立地している保育施設などは、避難確保計画といって、万が一、台風の接近などで避難指示が出た場合などに、どのようにして安全に子どもたちを避難させるかという計画を作成することが、法律で義務付けられています。そういった事前の対策を万全にして、被害にあわないようにすることが大切です。また、保育施設は、災害が起きた場合の三次避難所に指定されています。三次避難所は、予備的な位置づけとなっていますが、状況によっては、お子さんを預けていらっしゃるご家庭や、近隣住民などの避難所となる場合も考えられます。そのような場合は、保育施設で働くみなさんにも、本市の災害対策本部やスタッフ、地域の皆さんと協力して、避難所の運営に関わっていただくことになると思います。

【参加者】私は中央図書館を利用して保育実習に使う絵本を探しましたが、あいうえお順に並んでいて、量がとても多く、探すのに時間がかかり見つけにくく感じました。1～2歳、3～5歳、小学生と年齢ごとに分けたり、季節やテーマごとに分けたりして展示すると見やすいし、探しやすいくなって、大人も子どもも利用しやすいと考えます。

【市長】ご指摘のとおり、各務原市の図書館では書名で本を探す子どもの特徴を重視し、絵本の書名の五十音順で配列しています。大人は読みたい本を館内の検索機やホームページの資料検索などを活用し所蔵を調べますが、子どもは直接読みたい本を本棚へ探しに行くことが多いため、赤ちゃん絵本以外はあえて年齢分けをせず子どもたちが自分で本を見つけ手に取ることができるよう考慮されています。また、すべての絵本を年齢で区別するのは難しく、絵本の好みは人それぞれのため、「乗り物」「植物」「動物」「ロングセラーの絵本」「赤ちゃん絵本」などジャンルごとに展示し、子どもたちが好みの絵本を探しやすいように工夫をしています。季節ごとや「夏休み」「母の日」「オリンピック」などテーマごとの展示ブースも図書館内に年間を通じて設けています。

テーマ② SDGsの取組について

【参加者】 私たちも食品ロス削減に取り組んでいますが、フードバンクやフードドライブなどの流れを各務原市でも組織的に構築していただきたいです。

【市長】 本市では、国の計画や方針、またこれから県が策定する計画を踏まえ、令和５年度に「各務原市食品ロス削減推進計画」を策定する予定です。現在、岐阜県が本市の家庭ごみの中に、どんな種類の食品がどれだけの量あるのか分析調査を行っています。「各務原市食品ロス削減推進計画」には、その調査結果を参考にして立てた目標や、その目標を達成するために取り組んでいく施策を盛り込んでまいります。施策といたしましては、作りすぎによる食べ残しや、買い過ぎによる廃棄等について、イベントや市内の大型店舗との協力により啓発を行っていきたいと考えており、フードドライブについても、合わせて実施することを計画しています。フードバンクにつきましては、食品製造業者の皆様などにご協力をいただき、各務原市社会福祉協議会において既に実施しています。今後「各務原市食品ロス削減推進計画」に基づき各種取り組みを実施していく際には、フードドライブの仕組みの中で、フードバンク実施主体と連携を図りながら、食品ロスの削減に取り組んでまいりたいと考えています。また、食品ロスを出さない料理方法を学ぶ「環境教室」も継続して開催してまいります。

【参加者】 防災食を備蓄し日常で健康的に使う習慣を身に付けるローリングストック法をもっと市民の方にも啓発普及する対策があれば、食品ロス削減やエシカル消費の推進にもなると思います。

【市長】 本市では、昨年度、新たな防災備蓄倉庫も整備し、日々、備蓄の拡充に取り組んでいますが、備蓄できる容量は、南海トラフ地震で想定されている市内避難者数約 14,500 人の一日分の物資です。従いまして、各家庭での備蓄がとても重要になり、最低でも家族全員の三日分、できれば一週間分の備蓄をお願いしたいと考えています。これまでも、各種防災訓練や、出前講座、広報紙などを通して、家庭内備蓄の重要性を啓発してまいりましたが、家庭内備蓄における、ご提案のあったローリングストック法はとても有効であると考えています。各家庭に合った備蓄を考えて、日常生活で消費しながら無理なく備蓄を継続するという素晴らしい方法だと思います。引き続き、エシカル消費の推進を念頭に、こういった方法についても、市民のみなさんに啓発をしていきたいと考えます。

テーマ③ 各務原市・各務原市民をより元気にするために

【参加者】 各務原市の高齢者に「けん玉」を用いた健康づくりを行ってみてはと考えています。

【市長】 本市では、平均寿命の延伸による「人生１００年時代」の到来に向け、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることのできるまちづくりを目指しています。特に、健康な状態と要介護状態の間の段階である「フレイル」に着目し、運動・口腔・栄養・認知機能の維持・向上を目的とした、様々なフレイル予防事業に取り組んでいます。高齢者の通いの場（ボランティアハウスなど）においては、保健師・管理栄養士・理学療法士などの専門職を派遣し、フレイル予防の普及啓発、高齢者が自宅で手軽にできる体操の紹介（東海学院大学が考案いただいた「かかみがはらにんじん体操」など）、本市オリジナルで作成したフレイルチェック等を実施しています。けん玉についても、膝や下半身を使うことで適度な運動となり、また脳への刺激により認知機能にも効果があるとも言われており、フレイル予防に役立つと考えられます。自宅で手軽にできるフレイル予防の一つとして、通いの場や介護予防教室等において、紹介していきたいと思います。

【参加者】「スポーツの力」には、測り知れないものがあると考えます。健全なスポーツを活用し、地方都市としての活性化を図るといいと思います。

【市長】来年度事業では、観光資源を取り入れたウォーキングイベントや、ショッピングと食のイベント「かかみがはら おさんぽマルシェ」とコラボしたスポーツイベントなどを企画し、スポーツと観光、グルメなど、互いの利点を活かして参加者の幅を広げたいと考えています。また、東京 2020 オリンピックでは、各務原市はオランダ女子ホッケーのホストタウンとして、受け入れをしましたが、ホストタウン事業をオリンピック期間中の一過性のものにせず、今後も引き続き、国際交流やホッケーの推進に努めていきます。さらに、今後もスポーツによる市民の健康増進やスポーツを通じた交流を推進するため、新たな市民スポーツの拠点となる新総合体育館を建設することとしました。新総合体育館は、市民が日常的に使う施設であるとともに、これまでできなかった大規模なスポーツ大会にも対応し、さらなるにぎわいと交流を生み出す施設として活用していきたいと考えています。

【参加者】各務原市のバックアップで、市民のみなさんとホッケー関係者をホッケーでつないで、競技人口の増加や指導者養成、ボランティア養成など、ホッケー関係者で各務原市を盛り上げていけるのではないかと思います。また、スタジアムは、観覧しやすい設備、更衣室の拡張、選手の交流ルームの新設等があるといいなと思います。

【市長】各務原市は「ホッケー王国かかみがはら」として、インターハイや各種国際大会を川崎重工ホッケースタジアムで開催をしたり、小学生や中学生を対象にホッケースクールを開催して、ホッケー人口の増加に努めています。また、東京 2020 オリンピックでは、各務原市はオランダ女子ホッケーが練習会場としてスタジアムを利用しました。これからも、ホッケーのまちとして市ホッケー協会の協力のもと、国際大会などの誘致を推進していきます。なお、ご要望がありました施設の充実につきましては、スタジアムが県有施設になりますので、選手や観客が利用しやすい施設となるよう県へ要望し、市としても、引き続き選手や観客が安全で快適に利用できるようにスポーツ環境の提供に努めます。

【参加者】私は、各務原市の市民公園を今まで以上に高齢者や障害者の方に知って活用してもらいたいと思っています。活用いただく機会を増やすために、例えば、ふれあいバスのバス停が公園からやや離れているところにあるため、公園内に設けるとさらに中に入りやすいと考えました。

【市長】各務原市民公園へのアクセスにつきまして、ふれあいバス那加線上には「市民公園中央図書館前」停留所（市民公園南側）を設けており、公園へのアクセス向上に努めています。同那加線につきましては、令和 5 年 10 月を目途に、運行本数を 1 時間に 1 本（現在は 2、3 時間に 1 本）に拡充する計画を予定しており、改正後は同公園へのアクセスもより一層向上するかと思います。そのほか、市では自治会等が交通事業者と契約し、高齢者の介護予防や日常生活に資する移動手段を確保する取組に対して、経費の一部を補助する制度（住民主体の地域の高齢者等移動支援事業補助金）を実施しており、市民公園に限らず、高齢者が地域の中で介護予防を推進できるよう取り組んでいます。また、各務原市民公園は現在も多くの方に散歩やピクニック・イベントなどに利用されていますが、整備されてから 30 年以上が経過し、古くなったところや利用の少ないところが出てきていることから、施設や使い方を見直し、あらゆる人が気持ちよく公園で過ごせるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮したリニューアル整備計画を進めています。

【参加者】「かかみがはらにんじんのうた」の第二弾として、人参の健康成分やおいしさを伝える歌を提供したいと思っています。

【市長】作詞作曲いただいた「にんじんのうた」、音楽をつけて作り上げていただいたあかつきには、にんじんの広報や啓発イベントなどで活用を検討させていただきたいと思いますので、その際は、ぜひ農政課にご相談ください。

【参加者まとめの言葉】本日はお忙しい中このような貴重な機会をいただき、また学生の提案の一つ一つに今の各務原市の行っていることやこれから行う予定のことなどを丁寧にコメントしてくださってありがとうございました。私たち学生にとってもお互いに異なる視点の意見を聞くことができたため、有意義な時間となりました。私自身にとっても各務原市の知らなかった施設などを知ることができて行ってみたいなど興味が湧きました。私たちの意見が少しでも各務原市の役に立てたなら嬉しく思います。

【市長まとめの言葉】今日は皆さんから大学生らしい発想の提案や質問をいただき、市として気づいていなかった点に気づかせていただいたといった点で、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。現在の全国の市町村については、どちらかというと、市民の皆さんや民間の団体の方々や市内企業の方々のご意見を賜りながら一緒になってまちを作っていこうという姿勢が多くみられますので、ぜひ皆さんにおいても、これから居住される地や勤務をされる地について今回各務原市を調べていただいたように関心をもっていただき、色々な提言をいただきたいなと思います。これから皆さんが進まれる道についても自分の能力を遺憾なく発揮していただき、自分自身の人生を楽しんでいただくことを期待して、今日のお礼の言葉とさせていただきます。